

生命倫理学

責 任 者・コーディネーター	人間科学科哲学分野 林 研 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科哲学分野		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 16時間(8コマ)
期 間	後期		
単 位 数	1単位		

・ねらい

学修方針：現代医学の発展はめざましく、病気や障害に悩む多くの人々に福音をもたらしている。しかし他方では、延命治療技術の進歩によって安楽死問題が生まれたように、生殖医療、移植医療、遺伝子診断などの先端医療技術は新たな倫理的問題も生み出している。

本講義では、将来の医療人を目指す受講生が、こうした倫理的問題について深く理解し、広い視野から問題を考察するための基礎力養成を目指す。

教育成果：現代医療が直面している倫理的問題点を理解し、対立する諸見解を各自の観点から整理する作業を通じて、自分の立場を明確にすることができるようになる。

・学修目標

- 1.医療者-患者関係、終末期医療、移植医療等の現状を理解し、どのような点が倫理的に問題になっているかを説明することができる。
- 2.医療者-患者関係はどうあるべきか、安楽死は許されるか、脳死は人の死か、中絶は女性の権利か等の問題について、提起された諸見解を整理し、日本の現状にそくして、自分の見通しを述べることができる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム、B-1-2 患者中心の医療

・学修事項

- (1)医学・生命科学における倫理的問題の現状についての知識
- (2)医療関連の各種の国際的規範についての知識
- (3)生と死の問題を考察する視点

・この科目を学ぶために関連の強い科目

医療と福祉、医療と法律、医療と物語

・この科目を学んだ後につなげる科目

医療倫理とヒューマニズム

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/1	火	2	哲学分野	林 研 准教授	生命倫理とは何か 1. 生命倫理の歴史と原則、重要概念を説明することができる。 2. 生命倫理が生命科学や医療技術の進歩とどう関わっているのかを説明できる。 事前学修：教科書の 10、18、20 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
9/8	火	2	哲学分野	林 研 准教授	患者の自己決定権 1. 患者の自己決定権とは何かを説明することができる。 2. 社会の変化の中で自己決定の仕方やニーズが変わっていくことを説明できる。 3. 自己決定をめぐる倫理的問題点を指摘することができる。 事前学修：教科書の 16 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
9/15	火	2	哲学分野	林 研 准教授	安楽死 1. 安楽死の現状を説明することができる。 2. 安楽死の倫理的問題点を指摘することができる。 事前学修：教科書の 14、15 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
9/29	火	2	哲学分野	林 研 准教授	生殖補助医療 1. 生殖補助医療の現状について説明することができる。 2. 生殖補助医療の倫理的問題点を指摘できる。

					事前学修：教科書の 5 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
10/5	月	4	哲学分野	林 研 准教授	脳死と臓器移植 1. 移植医療の現状を説明することができる。 2. 移植医療の倫理的問題点を指摘することができる。 事前学修：教科書の 11 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
10/20	火	2	哲学分野	林 研 准教授	人工妊娠中絶 1. 人工妊娠中絶の現状について説明することができる。 2. 人工妊娠中絶の倫理的問題点を指摘することができる。 事前学修：教科書の 6、7 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
10/27	火	2	哲学分野	林 研 准教授	動物実験の倫理 1. 動物実験の現状を説明することができる。 2. 動物実験の倫理的問題点を指摘することができる。 事前学修：教科書の 21 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
11/2	月	2	哲学分野	林 研 准教授	人権と生命倫理 1. 人権とは何か、医療において人権が問題になるのはどんな場面かを説明することができる。 2. 高齢化や多文化共生への変化の中で人権を守る医療の大切さを説明できる。

					事前学修：教科書の 4、27 章に目を通し、疑問点を箇条書きにしておく。 事後学修：疑問点に対する解答をまとめる。
--	--	--	--	--	---

・ディプロマポリシーとこの科目関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	○
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	○
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	○
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	○

・評価事項とその方法

総括評価：定期試験（選択式 67%、記述式 13%）、平常点 20%（受講態度/課題提出など）

形成的評価：講義毎の提出物等で理解度を確認し、フィードバックする。

学修事項	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、2、3	1、2、3、4				80		20	100
合計					80		20	100

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	改訂版 テーマで読み解く生命倫理	小泉博明 他 編著	教育出版	2026
推	生命倫理学入門 [第 5 版]	今井道夫	産業図書	2024
推	入門・医療倫理 I [改訂版]	赤林朗 編	勁草書房	2017

・特記事項・その他

本講義では、講義内容の理解を深めるため、毎回受講生に課題を出し、関連するテーマについて各自の考えをまとめてもらう。また講義についての疑問点や意見等がある場合は、合わせて記載し、提出してもらう。課題の内容や疑問点の内容については、次回の講義の中で適宜とりあげ、解説を行う。試験の結果については、講評および全体的に理解度の低かったポイントに関する解説を WebClass に掲載する。課題や試験の評価については、成績確定後に希望者に開示する。

なお、教科書や参考書を用いて、事前事後学修を行うこと。事前事後学修は毎回同じ作業であり、各回 120 分程度の時間を要する。また、定期試験に向けての総復習には 13 時間程度の学修時間を要する。

形成的評価として、上記のように講義毎の提出物等で理解度を確認し、フィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン（ThinkPad E14Gen5）	1	講義プレゼンテーション
講義	デスクトップパソコン（Mac mini MMFJ3J/A）	1	講義資料作成、他